

問1 明治政府は、欧米諸国と結んでいた不平等条約を改正することを外交の最優先課題としていました。この条約のうち、日本の主権を侵害し、国内での裁判を日本の法律で行うことができないと定めていた条項の内容を説明したものとして、適切なものを選びなさい。（2021年 秋田県公立入試 類似）

1. 日本国内で罪を犯した外国人を、その国の領事が自国の法律で裁く権利
2. 輸入品に対して日本側が自由に税率を決定することができる権利
3. 他国に与えた最も有利な条件を、自動的に自国にも適用させる権利
4. 特定の地域に外国人が居住し、商業活動を行うことを認める権利

問2 18世紀後半、江戸幕府の財政再建と社会秩序の回復を目指して松平定信が行った「寛政の改革」の内容として、当時の社会状況を正しく反映しているものを選びなさい。（2020年 岡山公立入試 類似）

1. 田沼意次時代の賄賂政治や風紀の乱れを正すため、質素節約を強制し、旗本・御家人の借金を帳消しにする「棄捐令」を出した。
2. 享保の改革の成功に倣い、新田開発をさらに促進するとともに、目安箱を設置して江戸町民の意見を直接政治に反映させた。
3. 外国船の来航という危機に対応するため、台場（砲台）の築造を急ぐとともに、反対派の吉田松陰や橋本左内らを処刑した。
4. 物価高騰の原因は商人の独占にあると考え、株仲間を解散させることで流通の自由化を図り、江戸の物価安定を試みた。

問3 南北戦争の最中、リンカーン大統領が北部側の正当性を国内外に示すために発表し、戦局を有利に進めるきっかけとなった宣言はどれですか。（2026年 栃木公立入試 類似）

1. 奴隷解放宣言
2. アメリカ独立宣言
3. フランス人権宣言
4. 権利の章典

問4 19世紀半ば、イギリスはインドで生産したアヘンを清へ密輸することで、自国の貿易赤字を解消しようとしていました。これに対し、清がアヘンの没収や破棄といった厳しい取り締まりを行ったことがきっかけで発生した戦争を何といいますか。（2016年 高知公立入試 類似）

1. アヘン戦争
2. 辛亥革命
3. 甲午農民戦争
4. 名譽革命

問5 1854年、アメリカのペリーが再度来航した際、日本が長年の鎖国政策を改めて開国することを認め、下田と函館の2港を開くことなどを約束した条約の名称として適切なものはどれですか。（2021年 岡山公立入試 類似）

1. 日米和親条約
2. 日米修好通商条約
3. 日露和親条約
4. 日英通商航海条約

問6 長州藩は当初、外国勢力を排除しようとする攘夷運動の急先鋒でしたが、四国艦隊による下関砲台占領という事態を経験したことで、その方針を大きく転換させることになりました。この出来事のあとに、長州藩が倒幕を実現するためにとった行動の説明として、最も適切なものはどれですか。（2020年 大阪公立入試 類似）

1. 攘夷を継続するため、朝廷に対して江戸幕府の役職を辞任するよう要求した。
2. 幕府を支えて公議政体を作り上げるため、会津藩と同盟を結んだ。
3. 対立していた薩摩藩と密かに手を結び、武力によって幕府を倒す準備を進めた。
4. 外国の軍事力を借りるため、アメリカと新たな不平等条約を締結した。

問7 産業革命の影響と、労働者の動きについて述べた次の文のうち、歴史的な事実として正しいものはどれですか。（2026年 神奈川公立入試 類似）

1. イギリスでは、労働環境の悪化に対抗するため労働組合が作られ、やがて選挙権の拡大を求める運動などにもつながった。
2. イタリアでは、産業革命の開始と同時に社会主義による計画経済が導入されたため、労働組合は組織されなかった。
3. 日本では、江戸時代の問屋制家内工業が発展する中で、工場労働者による大規模な労働組合が世界に先駆けて結成された。
4. イギリスの労働者は、機械の導入を歓迎して労働時間を自発的に延長し、輸出額の増加を全面的に支援した。

問8 1853年、アメリカ東インド艦隊の司令長官として4隻の軍艦（黒船）を率いて浦賀に来航し、江戸幕府に対して正式に開国を要求した人物は誰ですか。（2024年 山梨公立入試 類似）

1. ペリー
2. ハリス
3. マッカーサー
4. オールコック

問9 19世紀、イギリスは清から大量の茶を輸入していましたが、支払いのために自国の銀が大量に流出することを防ぐため、植民地のインドを介した「三角貿易」を行いました。この貿易において、イギリスが銀の不足を解消するためにインドから清へ密輸させ、のちに戦争の引き金となった品物はどれですか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

1. アヘン
2. 綿織物
3. 毛織物
4. 生糸

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 日本国内で罪を犯した外国人を、その国の領事が自国の法律で裁く権利	領事裁判権は、本来その国が持っているはずの裁判権を他国に委ねるものであり、国家としての主権を著しく侵害する制度でした。明治政府はこの不平等を解消するため、法典の整備などを進めて近代国家としての体制を整え、1894年に陸奥宗光がイギリスとの間でこの権利の撤廃に成功しました。
問2	<b>答え 1</b> 田沼意次時代の賄賂政治や風紀の乱れを正すため、質素儉約を強制し、旗本・御家人の借金を帳消しにする「棄捐令」を出した。	寛政の改革は、商業重視から農本主義的な政治への回帰を目指しました。旗本・御家人の困窮を救うための「棄捐令」や、朱子学以外の講義を禁止する「寛政異学の禁」が特徴です。他の選択肢は、徳川吉宗による享保の改革（目安箱）、井伊直弼による安政の大獄（吉田松陰の処刑）、水野忠邦による天保の改革（株仲間の解散）の内容であり、寛政の改革とは異なります。
問3	<b>答え 1</b> 奴隷解放宣言	1863年に出されたこの宣言は、南部連合支配地域の奴隷を解放することを命じたものです。これにより、戦争の目的が「連邦の維持」だけでなく「奴隷制の廃止」という人道的な大義名分を持つようになり、奴隷制に批判的だったイギリスなどの欧州諸国が南部を支援することを困難にさせました。
問4	<b>答え 1</b> アヘン戦争	イギリスは、清から輸入する茶の代金として支払っていた銀が大量に流出することを防ぐため、植民地であるインドからアヘンを清へ持ち込む「三角貿易」を行いました。清がこの密輸を禁止したことに対してイギリスが武力で応じたのがアヘン戦争です。この戦争の結果、清はイギリスに敗北して南京条約を結び、東アジアにおける伝統的な秩序が大きく揺らぐこととなりました。
問5	<b>答え 1</b> 日米和親条約	1853年のペリー来航を受け、翌年の1854年に江戸幕府がアメリカと結んだ条約です。この条約により、日本は下田（静岡県）と函館（北海道）の2港を開港し、アメリカ船への薪水や食料の供給を認めることとなりました。これにより、江戸幕府が長年続けてきた鎖国体制は事実上終わりを迎え、開国へと踏み出すこととなりました。
問6	<b>答え 3</b> 対立していた薩摩藩と密かに手を結び、武力によって幕府を倒す準備を進めた。	四国艦隊の下関砲台占領により、長州藩は単独での攘夷が不可能であることを痛感しました。同様にイギリスとの戦争（薩英戦争）を経験していた薩摩藩も、海外の進んだ技術を取り入れる必要性を感じていました。両藩はそれまで対立関係にありましたが、土佐藩出身の坂本龍馬や中岡慎太郎の仲介によって、1866年に薩長同盟を締結しました。これにより、倒幕に向けた強力な軍事的・政治的基盤が確立されることとなりました。
問7	<b>答え 1</b> イギリスでは、労働環境の悪化に対抗するため労働組合が作られ、やがて選挙権の拡大を求める運動などにもつながった。	イギリスの労働運動は、単なる待遇改善にとどまらず、政治への参加（チャーティスト運動など）にも発展しました。なお、問屋制家内工業は産業革命以前の生産形態であり、労働組合とは異なります。また、イタリアの計画経済や機械の導入を無条件に歓迎したという記述も事実と反します。
問8	<b>答え 1</b> ペリー	19世紀半ば、アメリカは北太平洋での捕鯨船の補給基地や、中国との貿易の中継地点を確保するために日本に接近しました。1853年に神奈川県の大浦に来航した人物はペリーであり、翌1854年に再び来航して日米和親条約を締結しました。ハリスは1856年に下田に着任した初代総領事であり、日米修好通商条約の交渉を行った人物です。
問9	<b>答え 1</b> アヘン	イギリスは清からの茶の輸入超過による銀の流出を食い止めるため、インドで生産させたアヘンを清に密輸し、代金として銀を回収する仕組みを作りました。清がこのアヘンの取り締まりを強めたことがアヘン戦争の直接の原因となりました。選択肢にある綿織物はイギリスからインドへ輸出されていた品物です。